

# 令和4年度 学校評価表

北広島町立八重東小学校

## 1 経営理念

学校教育目標	夢をはぐくみ 自ら考え学び 共に伸びる 八重東っ子の育成 ○進んで自分から学び、みんなで伸びる子供→自ら学ぶ楽しさを味わいお互いに励まし切磋琢磨して高まろうとする子供の育成～ ○自分大好き、友だち・学校大好き、ふるさと 大好きな子供→思いやりや社会性など豊かな心を持った子供の育成～ ○自分を見つめ、目標めざして頑張る子供(体力・耐力・気力)→基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な子供の育成～	学校経営理念 <ミッション>	◆児童の生命を守る(学校管理・指導の徹底) ◆地域とともに創る学校・信頼される学校づくり ◆校長を中心とした組織的な学校経営・運営の推進 ◆法規・法令・規則等に基づいた学校経営の推進 ◆学校のミッションを自覚した学校経営と教職員の力量向上
--------	---	-------------------	---

## 2 経営目標・教育目標・評価・達成状況

目標・目標のための方策・目標値 等					自己評価				学校運営協議会表評価		改善方策		
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値 [年間]	3月 (目標)	3月 (達成)	達成度	評価	結果と課題の分析	評価		コメント	
健康な体の育成	生活の基盤となる健康な体の育成を図るとともに基本的な生活習慣の定着を図る。	①新型コロナウイルス感染症防止を意識し、進んで心身を鍛えようとする心情と態度の育成、基礎的な体力の向上を図る。	○体育の授業の充実(立ち幅跳びやボール投げにつながる運動を取り入れる等)を図るとともに、児童には個人で目標設定をさせ、体力テストに取り組ませる。 ○業間の体力づくりの場を設定するとともに、児童が自ら意欲的に活動に取り組めるように児童会等と連携する。	○新体力テストで、立ち幅跳び、ボール投げの数値が個人の目標を達成した児童の割合 等 ○体力づくりカード等の個人の目標を達成した児童の割合(業間の体力づくりに自主的に取り組む児童の割合) 等	95%	95%	90%	95%	A	・新体力テストで個人の目標設定を上回った児童の割合は、90%(立ち幅跳び 89%、ボール投げ 91%)であった。児童が目標をもって取り組めるように、県平均、全国平均を提示して個人目標を設定させ、記録用紙を活用して体育の時間等を中心に継続的に取り組んだ。達成率が低い学年があったので、組織的な取組の充実とともに、目標設定値の妥当性についても検討していく必要がある。 ・「体力づくり大作戦」では、時間いっぱい一生懸命取り組めた児童が97%だった。指導者も、ほぼ全員の児童が自分の目標をめざして意欲的に取り組めた、と評価した。マラソンや長縄チャレンジなども取り入れたことで、年間を通して、意欲的に体力作りに取り組める児童が増えた。	A	・評価は妥当である。 ・全国的に体力の低下等が問題とされているが、10月の運動会等で見る子供や縄跳び大会の様子からとても良い取組が行われている成果が出ている。 ・生活習慣の定着について、具体的に分かりやすい取組が地道にされている。	・体力づくりを主体的・意欲的に取り組めるように、児童の目標設定を行いながら体力向上を図る。 ・体力づくりを楽しみながら行える「体力づくり大作戦」の活動の内容を充実させる取組を継続し、児童の達成感や意欲を高める。 ・基本的な生活習慣について「生活ががんばりカード」の取組を学期に複数回取り組み、児童・保護者の意識を高める。
		②よりよい生活リズムの確立のために、基本的な生活習慣の定着を図る。	○手洗い、歯みがき、家庭学習の習慣化の指導を継続的にし、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○生活ががんばりカードの結果から、重点課題を取りあげて一斉に事後指導を行い、基本的な生活習慣に対する意識を高める。	○生活ががんばりカードの取組期間のうち、三点固定(起きる時刻・寝る時刻・勉強を始める時刻・学習時間)と歯みがき等ができていない日数の割合 等	85%	85%	100%	100%					
豊かな心の育成	自他を大切に、自らの夢や目標を持ち続け、友達と共に高まろうとする心情と態度を育成する。	③優しさや思いやりの気持ちを持ち、自分も友達も大切にできる子どもを育成する。	○自分の友達の優しい行動やがんばっていることを交流する活動を通して、「自分のがんばりや良いところに気付く機会」、「お互いの良いところを認め合う機会」を充実させ、自己肯定感や他者との関わりへの肯定感を高める。 ○学校行事や児童会活動、学級活動等、児童同士が関わり合う場を積極的に設けることで、児童のコミュニケーション能力を高める。	○アンケート調査において、自己肯定感や他者との関わり、思いやりに関する肯定的回答の割合 等 ○保護者アンケートの肯定的回答の割合 等	90%	90%	91%	101%	A	・「今の気持ちアンケート」の自己肯定感に関する項目で、95%の児童が肯定的回答であった。指導者アンケートでは、87%の児童に肯定的評価がつけられ、年間目標値を1%上回った。自己肯定感・有用感を高める「ほめほめカード」や「学校行事振り返りカード」の取組の成果と考える。 ・「今の気持ちアンケート」のコミュニケーション能力に関する項目で、96%の児童が肯定的回答であった。指導者アンケートや保護者アンケートでは、肯定的回答がそれぞれ96%、78%であり、年間目標値を5%上回った。年間を通じて取り組んだソーシャルスキルトレーニング(SST)の成果が出たと考えている。	A	・来年度も「ほめほめカード」や「学校行事カード」、「SST」は、計画的に続けて行う。その際、実施後に振り返りの場面を必ず設け、学んだことへの価値づけを行うようにする。 ・レジリエンス力の更なる向上を図るため、SSTで取り扱う内容を工夫する。(お互いの思いのズレに関する内容など) ・生徒指導の三機能を全職員が意識して授業・学校行事等をさらに進めようとする。	
		④生徒指導の三機能を生かした教育活動・積極的な生徒指導を行い、自己指導能力・レジリエンス力を高める。	○各学級で生徒指導の三機能を取り入れた授業づくり・集団づくりやソーシャルスキルトレーニングを計画的に行う。 ○学校行事や学級活動において一人一人が自分の目標に向かってやり切ったことを他者評価・自己評価することを通して、自己指導能力を高める。	○自己評価や教師の見取りにより、様々な状況に対してうまく対応できる児童の割合 等 ○振り返りやアンケートにおける肯定的な回答の割合 等	85%	85%	87%	102%					B
確かな学力の育成	課題を進んで発見し、友達と関わり合いながら自らの力で解決しようとする学びを通して、基礎・基本の学力を身につけた子供を育成する。	⑤意欲をもって学ばせるために、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりをする	○「授業づくりの3本柱」、(①導入の工夫②小集団学習と練り合いの充実③まとめと振り返りの充実)を生かした授業改善を行うことで、学習内容の定着を図る。 ○パワーアップタイムを使った学力補充を計画的に行い、基礎・基本の定着を図る。 ○各教科において、児童が自ら図書資料を活用したり図書館を利用したりする授業づくりを行い、資料活用能力を培う。	○国・算・(社・理)の単元末テストの平均が80点を上回る学級の割合 等 ○1月実施のCRTにおいて全学年大領域で全国比100を上回る学級の割合 等 ○図書資料の活用に関するアンケート等の肯定的回答の割合 等	100%	100%	95%	95%	B	・単元末テストで平均80点を達成できたのは、95%であった。算数科は単元によって達成率の偏りがある。思考力の育成をさらに図っていかねばならない。 ・1月に実施したCRTでは、大領域で全国比100を上回ったのは71%であった。算数科の図形分野に課題がある結果となった。問題文の理解が難しかった児童も多く、図形領域の指導を工夫していく必要がある。 ・「授業で自ら進んで資料を活用することができた。」と肯定的に回答した児童は87%であった。図書資料だけでなくタブレットの活用も行き、必要な情報を集めて課題解決を進めることで、学びを深めることができた。 ・指導者の見取りとして予習・復習につながる質の高い自主学習をする児童の割合は80%であった。八重東授業モデルB型を取り入れた授業改善を進めたことで、家庭学習の内容にも高まりがみられた。優秀な自主学習ノートの掲示や「はてなレポート」の取組の効果で、児童の自主学習への意欲が高まりつつある。 ・年間読書量の学年目標を達成する見込みの児童の割合は2月末で52%であった。発達段階に応じて目標冊数を変えているものの、内容の濃いページ数の多いものを積極的に読む児童もおり、冊数として伸び悩んだ実態もあった。新たに八重東読書150選として本を紹介し、本に親しむ児童の育成を更にめざしていく。	A	・児童の実態を把握・分析したことが、学力定着へつなぐことができるように、更に研修の充実を図って授業改善を推進する。 ・図書資料とインターネットの活用による学習を整理し、時代に合わせた効果的な活用を工夫して行う。 ・今後も、授業内容と関連付けた予習・復習や家庭学習に進んで取り組むことができるようにする。質の高い自主学習の在り方を指導者が意識統一して取り組み、学力定着へとつなげていく。読書に親しむ時間や場を今後も保証し、本に親しむ児童の育成を更にめざしていく。	
		⑥授業と生活・家庭学習をつなげ、進んで、学びを広げ、深めようとする子供を育成する。	○授業内容と関連付けた予習や復習を家庭学習にし、学力定着を図る。 ○学年に応じた学習時間を設定し、教科学習や読書などに主体的に取り組ませる。	○家庭で質の高い自主学習をする児童の割合(3年以上) 等 ○年間読書量が学年目標を達成している児童の割合 等	80%	80%	80%	100%					B
信頼される学校づくり	地域・保護者の願いを大切に信頼される学校・地域に貢献する学校づくりを推進する。	⑦ふるさと「八重東」を誇りに思い、地域に貢献しようとする子供を育成する。	○体験活動の事前事後の学習を充実させ、地域に還元・提案したり、ふるさとに貢献したりする教育活動を全学級で実施する。	○ふるさと「八重東」に愛着を感じている児童の割合 等 ○ふるさと「八重東」のために貢献しようとする意欲を持った児童の割合 等	90%	90%	94%	104%	A	・年間を通してふるさと学習は、コロナ禍でも感染対策を講じながら、地域の方を積極的に招聘した授業ができ、児童のふるさと「八重東」への貢献意欲を高めることができた。また、「ふるさと・キャリア講演会」で、その分野の第一線で活躍されている方の話を直に聞き、実物を見せていただいたり、体験をさせていただいたりすることで、ふるさと「八重東」への愛着心・生き方を深めることができた。 ・今年度は学校便りの紙面の充実とリニューアルしたHPにより、学校の取組・児童の様子を詳しく早く情報発信することができ、学校教育への理解を深めてもらった。 ・時間外勤務月45時間未満6月以内・年540時間を超えない職員は、100%である。学校衛生委員会や企画委員会、職員研修等で「働きがい」に関する業務の検証を行い自己管理の意識も高く、年間の目標も達成することができた。 ・保護者アンケート「信頼される学校づくり」の全項目の肯定的回答の割合は83%と目標値は達成できなかったものの2学期以降の取組が肯定的評価を1学期よりも上げたと考えられる。	A	・年間を通して計画的に地域の方を招聘してふるさと学習を実施し、ふるさと「八重東」への貢献意欲を高めていくと共に、SDGs等環境教育の視点も取り入れる。 ・学校の情報発信については細やかな情報までよく公開している。 ・勤務時間については、「働きがい」改革に関する業務検証を続け子どもへ向き合う時間を確保する。 ・HP等により日常的な情報発信連携を深める。	
		⑧働きがい(働き方)改革を推進し教育内容の充実を図り、地域・保護者に信頼される学校経営・運営をする。	○各職員が時間外勤務時間の目標をたて、見通しを立てて業務を遂行し、勤務時間の自己管理を徹底する。 ○毎月の企画委員会、学校衛生委員会等で「働きがい」に関する業務の検証を行い、必要に応じて改善を図る。	○超過勤務月45時間未満、年540時間を超えない職員の割合 等 ○保護者アンケート「信頼される学校づくり」全項目の肯定的回答の割合 等	80%	80%	100%	120%					A

【自己評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【学校運営協議会評価】 A:自己評価は適正である B:自己評価はほぼ適正である C:自己評価はあまり適正でない D:自己評価は適正でない E:分からない